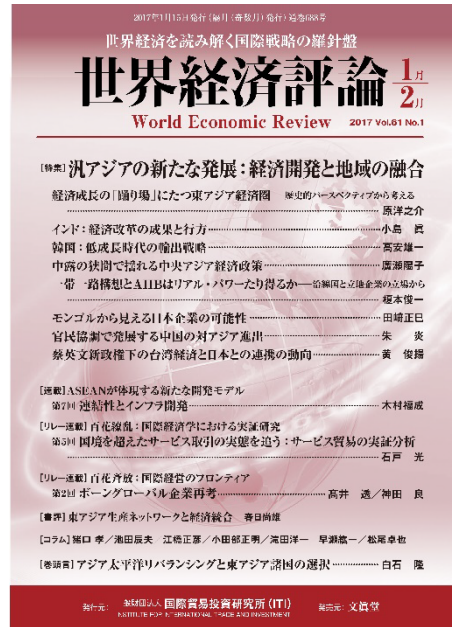


本論文は

世界経済評論 2017年 1/2月号

(2017年 1月発行)

掲載の記事です



世界経済評論 定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料
OFF



定期購読
期間中

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

デジタル版バックナンバー 読み放題!!



世界経済評論 定期購読



☎0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp
雑誌のオンライン書店

今や周知となった5Sは「整理、整頓、清掃、清潔、しつけ」の頭文字の5つのSからなっている。その基本的な考え方は「経済活動の中の無駄」を排除することにある。工場の中での工具の管理を例にとると「必要な種類と量の工具がいつも同じ場所に置いてあり、使った後は『次に使う人のことを考えて』必ず元の場所に戻しておく」ことである。つまり「Think of othersを常に意識すること」。このようにすると工具を工場のどこにあるかを探さなければならない。工場の中では「探す時間」は全く生産に寄与せず、最も嫌われる無駄な時間である。重複する工具を無駄に買い込み、経費を無駄遣いすることもなくなる。

この考え方を今後のマレーシアの経済成長に取り入れたらどうかと思うのである。

強調したいのはこの“Think of others”である。マレーシアでは残念ながら、この考え方が高いレベルで人々の意識の中に定着しているとは言えない。

車の運転マナーを例にとる。マレーシアは全世界の93%が車を保有し、世界第3位の保有率という。2台以上保有する世帯の割合は54%で発展途上国の中では飛び抜けて高い。

全般的に見て他の発展途上国と比較すると交通マナーはいい方だろう。特にクラクションをほとんど鳴らさないのは、一種の品性を感じさせる。

しかしながら改善すべきことはまだまだ多い。

例えば、常時左折可のレーンを直進車が塞いで左折する車を無駄に待たせている。右折したい車が停車して待っていると直進すると思っていた対向車がターニングシグナルも出さず、左折していく。ターニングシグナルを早めに出し

てくれば右折車が待つことはなかった。こういう小さな無駄がたくさんある。

こういう無駄が1日に1台当たり10分あったとする。そのうちの半分、5分間が生産活動に使えたとする。1日に1,000万台が走り、平均2人が1台の車に乗った場合で試算してみる。5分×1,000万台×2人=100,000,000分。約167万時間・人分の生産増になる。1日当たり167万人の人が1時間働いた分のGDPが押し上げられることになるのである。バカにできない数字である。

もう一つ確実に無駄が排除できるのはエアコンの設定温度を3度ほど高くすることである。

マレーシアは自国の良質な石油を輸出し価格の安い石油を輸入して発電している。東南アジアの国々は例外なく冷房を効かせすぎる。ホテル、事務所、レストラン、車の中、で普通の日本人には寒いと感じさせるほどエアコンを効かせている。設定温度を3度高くするだけで石油輸入をかなり減らすことができるのである。

金のかからない
経済成長



「交通マナー」
と「弱冷房」

私のローカルの友人のオフィスでは「エアコンがないと気絶する」と言ってエアコン設定温度を21度前後にしている。日本並みの28度は無理にしても25度前後にならないものかと思う。私のビジネスパートナーのオフィスなので私は週に二回はこのオフィスに行く、その都度長袖の綿のカーディガンか薄手のジャンパーを持っていく。それでも3時間以上中にいると体が芯から冷えてくる。

いずれも「どうにかならないものか」、コンサルはつい意識してしまう。

はやせ こういち KH Business Solution 社, 在マレーシア 30年。